



グローバルリーダーシップ研究所 Institute for Global Leadership ニューズレター 第19号 令和2年12月 Newsletter Vol.19, 2020 December

- ・国際シンポジウム開催のお知らせ
- ・国際セミナー開催のお知らせ
- ・オンラインによるサマープログラムの予告
- ・集中講座「アカデミック女性リーダーへの道（実践編）」開講のお知らせ
- ・NWECC男女共同参画推進フォーラム ワークショップ参加報告
- ・セントメアリーズ大学とのオンライン国際交流イベント開催報告
- ・NAFSA国際教育週間イベント参加報告
- ・第2回IGLオンラインセミナー開催報告
- ・第1回国際日本学講演会開催報告
- ・後期グローバルリーダーシップ研究所関連授業報告
- ・徽音塾 秋学期開催報告
- ・学生シンポジウム開催報告
- ・研究所からのお知らせ（お茶大人材バンクについて、他）

国際シンポジウム開催のお知らせ（2020年12月19日）

グローバルリーダーシップ研究所主催の国際シンポジウムを以下のように開催いたします。ぜひご参加ください。

「女性リーダーがSDGsに向けて果たす役割
—アジアの市民社会と国際教育から—」

“Women’s Leadership and its Role for SDGs: Approaches from Asian Civil Society and International Education”

日時：2020年12月19日(土) 15:00-17:30（日本時間）
 開催形式：Zoom Webinarによるオンライン
 使用言語：英語（日英同時通訳あり）
 対象：どなたでもご参加いただけます（事前申込制）
 申し込み：12月16日（水）17:00までに [こちらから](mailto:info-leader@cc.ocha.ac.jp)→
 問合せ先：info-leader@cc.ocha.ac.jp

「今、世界のいたるところでリーダーシップが問題となっている。新型コロナウイルスの感染拡大や環境問題、社会的な分断が世界規模の課題となり、以前にも増して優れたリーダーシップとは何かが問われることが多くなった。他方、SDGsという共通の目標を得たことで国の発展の度合いに関係なく、世界が進むべき未来の在り方の合意形成が進み、派生してジェンダー平等の実現や質の高い教育の提供をはじめ、共通の課題を乗り越えるために女性リーダーが果たす役割について、それぞれの立場からそれぞれの共同体としての議論が可能となった。とはいえ、女性リーダーという考え方がそもそも意味するところは必ずしも明確ではない。女性がリーダーとして果たすべき役割はどのように考え出され、どのように求められ、それをどう引き受け、どう変えていけばいいのか。タイ、フィリピン、日本、韓国といった現代アジア諸国におけるさまざまな社会的局面における女性リーダーの立ち上がる様子を論じることで、新たな見地を築こう。」



開会挨拶：

佐々木泰子 [本学理事・副学長、グローバルリーダーシップ研究所 所長]

登壇者・発表タイトル：

チャニタ・ラックボラムアン [サイアム大学（タイ）副学長]

“Women’s Leadership and their Roles in Sustainable Development”

ウィーナ・ヘラ [フィリピン大学セブ校 准教授]

“Women’s Leadership in Philippine Governance: Paths, Spaces and Practices that Mattered for Sustainable Development”

小林誠 [グローバルリーダーシップ研究所 副所長]

“How Is Women’s Leadership Conceptualized and Developed in Japan?”

コメンテーター：

趙成南 [梨花女子大学校（韓国）名誉教授]

モデレーター：

岡村利恵 [グローバルリーダーシップ研究所 特任講師]

文責：岡村利恵

（グローバルリーダーシップ研究所特任講師）

国際セミナー開催のお知らせ (2021年1月29日)

グローバルリーダーシップ研究所国際セミナー

「政治と平和に関する意思決定過程におけるミャンマー女性の役割」

“Role of Myanmar’s Women in Political and Peace-Related Decision-Making Process”

ミャンマーでは50年以上にわたる長い軍事政権を経て民政移管が行われ、2016年からはアウンサンスーチーを事実上の元首に置く文民政権が成立しています。厳しい状況の中でミャンマーの女性は政治や平和構築にどのような役割を果たし、どのようなリーダーシップを獲得しつつあるのでしょうか。ミャンマーの現状を学ぶとともに、アジアの女性リーダーシップの模索のあり方について、ヤンゴン大学国際関係学部Lwin Cho Latt講師の講演から知見を深めます。ふるってご参加ください。

日時：2021年1月29日（金）16:00-17:30（日本時間）

講演者：Lwin Cho Latt

[ヤンゴン大学(ミャンマー)国際関係学部 講師]

司会：小林誠

[グローバルリーダーシップ研究所 副所長]

コメンテーター：大木直子

[グローバルリーダーシップ研究所 特任講師]

対象：本学学生・教職員等 本学関係者

開催形式：Zoomによるオンライン

(参加費無料・事前申込制)

使用言語：英語（通訳はありません）

申込方法：以下のURL又はQRコードから

<https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/ocha2/Leadership/seminar20210129>

申込締切：2021年1月22日（金）17:00まで

問合せ先：IGL-seminar@cc.ocha.ac.jp



↑
申込はこちらから

文責：大木直子

(グローバルリーダーシップ研究所特任講師)

オンラインによるサマープログラムの予告 (2021年2月6日～2月20日)

2020年度お茶の水女子大学サマープログラムは新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインで2021年2月6日～2月20日に開催されます。

今年度は、オンラインによる開催となりますが、本学海外協定校等の多様な国から留学生が参加します。また、本学学生も履修できるプログラムとなっていますので、日本人学生と留学生が共に学び、協働する経験を提供していきます。

本プログラムは、日本語コースと社会文化コースから構成されています。前者は留学生対象のコースで、日本語学習初心者から1～2年の学習歴のある学生が参加できるように初心者・初中級の二つのレベルの少人数クラスを設置しています。後者は、2つの専門コース（Trans-border Issues in Japan, Exploring Natural Science and Technology in Japan）の講義とプロジェクトワークが履修できるコースとなっています。2つの専門コースでは、単に英語を教える授業と違い、各コースの専門教員が英語でテーマに沿った授業をオムニバス形式で行います。プロジェクトワークは「グローバルリーダーとSDGs」をテーマに、本学学生と海外協定校参加者とグループに分かれSNSやオンラインツールを使用し協同作業をしながらプロジェクトをグループで進めていく授業です。

また、本プログラム期間中には、グローバルリーダーシップ研究所主催の2つの特別講演会が予定されています。

1. “Women, Power, and Leadership in Islam”
日時：2021年2月10日（水）18:00-19:30
講演者：Dr. Azdeh Kian パリ大学教授
使用言語：英語
2. “Women’s Employment and Men’s Domestic Work in Contemporary Japan: Implications for Women’s Leadership”
日時：2021年2月15日（月）18:00-19:30
講演者：石井クンツ昌子 本学名誉教授
使用言語：英語

更に、両特別講演会を受けて、リーダーシップ教育に関するワークショップも開催予定です。

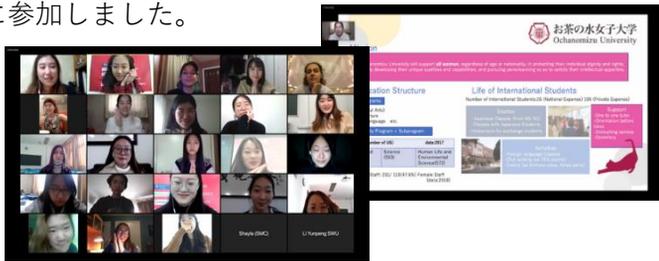
文責：松田デレク
(国際教育センター兼グローバルリーダーシップ研究所講師)

長塚尚子
(同 アソシエイトフェロー)

セントメアリーズ大学とのオンライン国際交流イベント開催報告（2020年10月24日）

国際教育センターおよびグローバルリーダーシップ研究所共催で開かれた本企画はセントメアリーズ大学の国際教育週間イベントの一環として実施されました。本学学生の国際交流を図り、オンラインであっても様々な国の学生と意見交換し、異文化理解を深めることを目的に行いました。2020年度の交換留学が中止となった学生に募集をかけた結果、定員5名のところすぐに満員となり、さまざまな学年の学生が参加しました。

オンライン国際交流イベントには、本学とセントメアリーズ大学以外に、韓国の本学協定校梨花女子大学、中国からは中国女子学院、山東女子学院からも参加者が集まり、教員も含め31名で交流会が行われました。イベントのための準備として、本学学生は8回にわたる事前授業を行い、議論したいテーマを決めて、事前調査を行い、質疑応答のための準備をしました。事前授業も含め全て英語で行われ、どの学生も積極的に参加しました。



イベント当日は以下の5つのテーマについて議論されました。

1. 新型コロナウイルスが勉学にどのような影響を及ぼしたか
2. 新型コロナウイルスがジェンダーの観点からどのような問題をもたらしたのか
3. 新型コロナウイルス禍におけるそれぞれの都市での暮らしの変化について
4. このような状況でどのような時に幸せを感じたか
5. 伝統的な文化が習慣として身につけていることについてどのように思うか。また、その伝統的な文化を個人の日常にもっと取り入れるべきだと思うか。

イベントは当初1時間半の時間設定をしていましたが、学生の議論が続き、2時間に急遽延長されました。本学学生の感想として、英語に対する抵抗は全く見られず、むしろ「もっとディスカッションがしたかった。時間が足りなかった。」「もっと議論を深めたかった。」「他の国の同じ学生の意見について知ることができて良かった」といった感想が寄せられ、オンライン国際交流が学生の異文化理解促進に効果的に働いたことがうかがえました。

文責：松田デレク
（国際教育センター兼グローバルリーダーシップ研究所講師）

NAFSA国際教育週間イベント参加報告（2020年11月16日～20日）

米国国際教育交流団会議（NAFSA）が主催するオンラインによる国際教育週間イベントに参加しました。例年は年次大会に本学も参加しますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため対面開催は中止となり、オンラインでさまざまな催しが行われました。大学や高等教育機関を中心に約350名の参加者が集まりました。

米国以外からの参加者はほとんどおらず、米国高等教育機関の国際教育に関する議論が多く展開され、各大学が国際分野で抱える課題について深く知ることができました。スケジュールは以下の通りです。

本イベントは高等教育機関向けに開かれたイベントでしたが、米国における国際教育の危機的な状況について学ぶことができました。トランプ政権で窮地に立たされている国際部門の葛藤や留学生のサポートに関する現場の声が聞けました。また、各大学のリーダーの役職に就いている教職員の運営面での苦勞と成功事例に関する発表もありました。国際教育において担当する教職員の異文化理解やこれまでにマイノリティの立場から異文化をみたことがあるか否かという経験が非常に大切であると何度も強調されて言われていました。

文責：松田デレク
（国際教育センター兼グローバルリーダーシップ研究所講師）

【スケジュール】

11月16日 13:00-15:00 (EST)	我々の未来：この先の4年間 Our Future: The Next Four Years
11月17日 10:00-13:30 (EST)	社会正義と国際教育：その交差点を探る Social Justice & International Education: Exploring the Intersections
11月18日 13:00-15:00 (EST)	NAFSA 上院議員ポール・サイモン賞：キャンパス国際化のための学長座談会と表彰 NAFSA Senator Paul Simon Award for Campus Internationalization Presidential Panel and Award Recognition
11月19日 13:00-15:00 (EST)	今日の学生を参画させるための視点 Perspectives on Engaging Today's Students
11月20日 09:00-14:00 (EST)	2020年秋 NAFSA研究シンポジウム：国際教育における理論・方法論・実践の批判的考察 Fall 2020 NAFSA Research Symposium: A Critical Discussion of Theories, Methodologies, and Practices in International Education

第2回 IGLオンラインセミナー

“Women Leaders in Asia and America” 開催報告（2020年11月18日）

11月18日にドイツ ミュンヘン工科大学副学長（タレントマネジメント・ダイバーシティ担当）のクラウディア・ポイス教授のオンラインセミナー“Women Leaders in Asia and America”を開催しました。

ポイス教授は情報化時代のリーダーシップとリーダーシップ開発、研究機関の経営管理と組織のダイバーシティについて研究されており、2015年にThe Leadership Quarterlyに掲載された“On becoming a leader in Asia and America: Empirical evidence from women managers”をはじめリーダーシップ研究の分野で多くの研究業績を持ち、2020年には「ドイツで最も感銘を与える女性」（Germany’s Most Inspiring Women）の一人に選出されています。

セミナー当日は、インドやシンガポール、中国といったアジアの国々、そして米国、ドイツの女性管理職へのインタビュー調査によって明らかになった女性リーダーの成功を後押しする要因とその文化的側面について、学生や一般向けにもわかりやすく説明頂きました。

ポイス教授は最後に、女性リーダーを目指す次世代に向けて、「課題に直面したら、それに真正面から挑

むのではなく、それを飛び越えるという姿勢も大事」等、インタビュー調査に応じた女性管理職のメッセージを紹介して下さいました。

学生からも質問が相次ぎ、調査方法や組織に変化をもたらすためにどうしたらいいのかといったことについても丁寧に回答頂き、実施後の参加者アンケートでは「米国外資系に勤務しており、アメリカ型の価値観を参考にキャリアを重ねてきましたが、アメリカ型以外の各国の女性リーダーの話聞いて、単一的な価値観に捕らわれていたことを気づきました」、「女性リーダーの捉え方がアジアというくくりでは考えることはできないという指摘やそれぞれのリーダー像やリーダーになるための手段が国によって違うことが興味深かった」という感想が寄せられました。当日は一般も含めて50人を超える参加があり大変活気あるセミナーとなりました。

文責：岡村利恵
（グローバルリーダーシップ研究所特任講師）

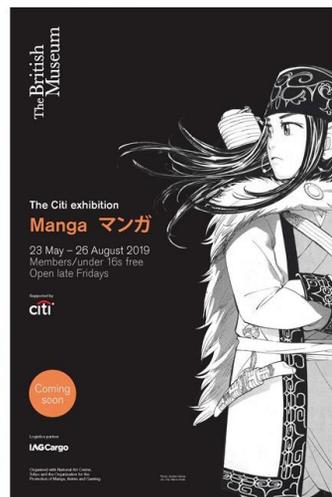


第1回国際日本学講演会開催報告（2020年11月25日）

11月25日（水）に比較日本学教育研究部門が主催する第1回国際日本学講演会が開催されました。今回は新型コロナウイルス感染症流行の影響により、オンラインによる開催となりました。

時差9時間のイギリスとオンラインで結び、セインズベリー日本藝術研究所の松葉涼子先生から「英国における『日本』展 - 大英博物館企画展を事例として -」についてご講演いただきました。松葉先生からは、大英博物館の三菱商事日本ギャラリーの展示や「マンガ」展の企画・開催を中心にお話いただきました。

大英博物館 Citi exhibition Manga マンガ展 2019年5月～8月



過去と現代のつながりを重視し、そこから人間の営みを考えるという大英博物館の位置づけ、物語を作り解釈を提案する学芸員の役割、いろいろな文化や時代が重なる大英博物館の展示、そのようなベースをふまえて「マンガ展」を考えるということ…。日本の中に居るだけでは及びも付かないスケールの話に圧倒される講演となりました。博物館やマンガと多くの人びとが関心を寄せるテーマのためか参加者は70人を超えました。

イギリスから見た日本、イギリスと日本のつながり、日本の中にいるだけでは学ぶことのできない日本の姿を学ぶ良い機会となりました。感染症の流行によって世界との往来が閉ざされた状況下において、オンラインにおける日本とイギリスのつながり、引いてはオンラインを使っただけの世界とのつながりを垣間見るひと時となりました。

文責：神田由築
（グローバルリーダーシップ研究所
比較日本学教育研究部門長）

「女性のキャリアと経済／女性リーダーへの道（ロールモデル入門編）」

本講座は、公的機関、産業界、金融界、マスコミなど社会の第一線で活躍中の方をゲスト講師としてお招きし、各分野の仕事の内容や社会的な役割等についてお話いただくことを眼目に運営されています。

本年度については、10月13日の佐々木裕子氏（チェンジウェーブ 代表取締役社長 CEO）を皮切りに、10月27日に安東智子氏（みずほ銀行 グローバル人事業務部参事役）、11月3日に今川京子氏（日本経済新聞社 執行役員グループ経営室長）、11月10日に宇佐美啓子氏（三菱商事 環境R&D室長）、11月24日に箱崎みどり氏（ニッポン放送 アナウンサー）、12月1日に西名香織氏（高島屋 EC事業部長）、12月8日に沼本奈美氏（日本銀行 政策委員会室審議役）をお招きし、各々の分野の業務内容やその役割、職業や生活に係る経験等についてお話を伺いました。

今年は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、多くの回をオンラインで開催することとなりましたが、2回の対面講義を含め、全ての回で講師ご自身の実際の体験やそこで培われた知見、教訓といった内容について、丁寧かつ率直にお話頂きました。その後の質疑応答での意見交換、更にはコメントカードの質問に対する丁寧な回答とあわせ、受講者にとって、将来のキャリアに関する考え方、リーダーやロールモデルに

期待される役割について、しっかりとイメージする貴重な機会になったように思います。

本年度の最終回として12月22日に白川香名氏（大和証券 常務執行役）をお招きし、オンラインでお話を伺う予定です。履修登録をしていなくても、お茶大の学生であれば聴講が可能です。参加を希望する学生は、件名を「12.22講演会参加希望」とし、氏名・所属・学年・学籍番号・連絡先（大学の公式メールアドレス）を明記の上、グローバルリーダーシップ研究所メールアドレス（info-leader@cc.ocha.ac.jp）にて事前申し込みをお願いします。意欲ある多くの学生の参加をお待ちしています。

授業担当：小高新吾
（グローバルリーダーシップ研究所客員教授）



「キャリア開発特論（基礎編）」

今年度も大学院生向けのキャリア科目「キャリア開発特論（基礎編）」が実施されました。「ポストドクター・キャリア開発事業」の成果の学内定着として、大学院生を主たる対象に、IGLが主催者となって開講しているものです。

この科目は、アクセンチュア株式会社の協力のもと、座学や社会人との座談会を通じて仕事やキャリアについて学び考え、グループワークを通じて社会で活躍するためのスキルを実践的に学ぶものです。今年度は新型コロナウイルス流行のため、すべてZoomによるオンライン授業となりました。授業は10月17日、10月31日、11月14日、11月28日、12月12日の5回、それぞれ午後1時から午後6時まで行われました。

院生のキャリアデザインに役立つ本科目が学内で定着しつつある結果か、今年度の履修者は27名、聴講者5名、さらに学部生の聴講者6名と、昨年度より多くの学生が参加しました。今年度は、オンライン授業の利点を生かして、本学同様に院生のキャリア教育に力を入れている津田塾大学、国際基督教大学の学生もそれぞれ約10名、授業に参加しました。毎回タイトなスケジュールでしたが、受講者は濃密な時間を過ごし、これからのキャリア形成を考える大きなヒントを得たと思います。授業の企画運営には本学卒業生を含む同社社員が献身的に携わっていますが、今年度は履修者増への対応もあり、毎回10人ほどの方が関わってくれました。

授業の実際については、報告書等を参照していただくとして、参加学生のコメントペーパーから一部を紹介しておきます。

「社会で働いていく上で必要な考えのプロセスを学ぶことができ良かったです。」

「仕事で必要なロジカルシンキングについて、体系だった論理的展開の仕方を学びました。」

「日常生活のリズムだけでなく、社会人として持たないといけない責任感とか、他人への思いやりとか、お互いの観点をわかり合う姿勢とか、本当に細かいところまで、このような授業以外で聞く機会もないことを伺えて勉強になりました。」

「ファシリテーターという役割を初めて行い、難しさを実感しました。特に発言の少ない人に、どのようにして自然に話をふるかを考えるのが難しかったです。」

授業担当：宮尾正樹
（グローバルリーダーシップ研究所
リーダーシップ教育研究部門長）

「未来起点ゼミ／未来起点研究」

このゼミでは附属高校生から大学院生まで、様々な専門分野の学生が参加しています。

前期は社会課題の認識を深めるとともに、未来を創る思考力、表現力が身につくよう、プレゼン・システム思考・グラフィックレコーディングなどの専門家を招き、講義と対話を通じ、自分が実現したい社会を描くことを目標にしました。

後期は各自またはチームで取り組むテーマを決定し、「未来起点フォーラム」で発表します。現在、発表に向け、学生同士や教員との対話を通して、テーマの仮説検証やエコシステムの検討などを行っています。また、ブリヂストンを含む学外の方からのアドバイスを得る機会も設けています。フォーラムの運営も学生が主体的に行っています。

フォーラムの参加方法やテーマの詳細などは決定次第、IGLのホームページに掲載する予定です。ご不明な点がございましたら担当教員までご連絡下さい。

郭： kaku.reiken@ocha.ac.jp

角田： tsunoda.ayano@ocha.ac.jp

第2回「未来起点フォーラム」開催のお知らせ

2020年度社会連携講座「未来起点ゼミ（大学院では未来起点研究）」は今年で2年目を迎えました。今年の1年間の学びの集大成として、第2回「未来起点フォーラム」をオンラインで開催します。

【第2回「未来起点フォーラム」】

日時：2021年1月21日（木）16:50～18:40

開催形式：Zoomによるオンライン

内容：個人のやりたいことをベースに、2030年までに実現したいこととその道筋について発表する。

参加申込方法：決定次第IGLのHPに掲載予定

文責：郭麗娟

（グローバルリーダーシップ研究所特任講師）

徽音塾 秋学期講座報告（2020年9月5日～12月5日）

9月講座「企業会計」ではプレ講座（櫻井康弘講師）、本講座前半「財務会計」（菱山淳講師）、後半「管理会計」（櫻井講師）を開催し、プレ講座は7名、本講座は10名参加でした。受講者の熱意がいつにも増して高く、本講座受講者の全員が修了しました。

11月講座「マーケティング／経営戦略」は本講座前半「マーケティング入門」（神原理講師）、後半「経営戦略の基礎」（露木恵美子講師）を開催し、前半10名、後半9名参加でした。この報告の執筆時点で後半あと1回を残していますが、毎回盛り上がっています。

また、この期間に本学の教職員によるトライアル講座を3つ開講しました。

10月講座1「災害時の地図と食」（長谷川直子講師／須藤紀子講師）に6名

10月講座2「ビジネスパーソンの教養：哲学」（中野裕考講師）に7名

11月講座「ビジネスパーソンの教養：日本文学」（森暁子担当）に9名参加

受講者にはそれぞれの興味で面白がってもらえた様子です。

哲学を扱った9月ネットワーキングランチ（石田恵理担当）も11名参加で好評でした。

急なオンライン化でしたが、講師の先生方には工夫を凝らしていただき、おかげさまで当初の予定通り開講できております。リアクションペーパーからは満足度の高さも見て取れます。

Zoomでお互いの顔が常に見えることで、対面時とは異なる親しみも生まれているようです。受講者には、お茶大のオンラインイベントにも積極的に参加いただいている模様です。

文責：森暁子

（グローバルリーダーシップ研究所特任アソシエイトフェロー）



12月4日に「グローバルリーダーシップ実習Ⅶ」の授業の一環として、履修学生による学生シンポジウムをイタリアのパヴィア大学的女子カレッジ Collegio Nuovoの学生とともに開催しました。

イタリアと日本をリアルタイムで接続し、Collegio NuovoのBernardi学長と本学の佐々木泰子理事・副学長にもそれぞれご挨拶とメッセージを頂きました。

本学からは、“Is Online Education Effective for Quality Education? Revealing the Benefits and Challenges”

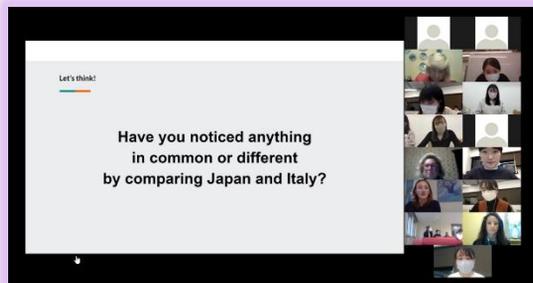
「教育の質を高めるためにオンライン授業はどう貢献できるのか？」と“Judgments on Women’s Outer Appearance from the Perspective of Gender Stereotypes” 「女性の外見にまつわるステレオタイプ」というテーマで学生からの発表があり、さらに各発表を学生がファシリテートするセッションも試みました。

イタリアからはジェンダー平等に関連する法律や女性が管理職に占める割合、そしてコロナ禍で女性へのドメスティック・バイオレンスが深刻化している状況等について発表がありました。

当日は日本とイタリアから50名を超える参加があり、お互いの発表に真剣に耳を傾ける様子が見受けられました。事前にオンラインでCollegio Nuovoの学生との打合せを行い、リハーサルも重ねた結果、本学の学生も自信を持って英語での発表に臨むことができました。4月以降オンラインでのイベント開催が続いていますが、今回の学生の発表内容とも重なるように、コロナ禍は国際交流、国際教育の新たな可能性を見出すきっかけとなっています。

テーマは“Student Perspectives on Education and Gender Issues in Japan and Italy in the Context of Problems Posed by COVID-19”

「日本とイタリアの学生が考える教育とジェンダー～COVID-19によって炙り出された身近な問題とは～」で、テーマ設定やシンポジウム運営などを学生主導で行いました。



オンラインシンポジウム風景

文責：岡村利恵
(グローバルリーダーシップ研究所特任講師)

研究所からのお知らせ

・お茶大人材バンクをご活用ください

「お茶大人材バンク」は、本学の卒業生、修了生、大学院在学中の方に、学内の補助業務（謝金払い又は非常勤職）を紹介するシステムです。紹介を希望される場合は、登録が必要となりますので、ぜひご登録ください。また、本学教職員が学内の補助業務（謝金払い又は非常勤職）を依頼したい場合は、お茶大人材バンク事務局までご連絡ください。

【お茶大人材バンク事務局 jinzai-bank@cc.ocha.ac.jp】

・令和2年度『お茶の水女子大学論 ロールモデル講演集』

今年度前期の授業「お茶の水女子大学論」の講演集ができました。本研究所のホームページから閲覧できます。

https://www.cf.ocha.ac.jp/igl/j/menu/publication/d003483_d/fil/R2rollmodel.pdf

・「IGL主催リーダーシップ教育授業の効果測定に関する調査報告」

本学の紀要『高等教育と学生支援』2019年第10号に掲載されました。教学IR・教育開発・学習支援センターのホームページから閲覧ができます。

<https://crdeg5.cf.ocha.ac.jp/crdeSite/pdf/j19n-6.pdf>



↑
人材バンク案内